

であいこうか

木への感謝を胸に

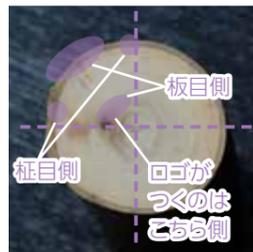
元バット職人
くぼたいそかず
久保田五十一さん



バット職人時代は、イチロー選手、松井選手などの活躍を支えた久保田さん。現在は、いとこの営む信楽駅前の店でそば職人として活躍しています。バット職人からそば職人へ。関連のないように思える二つの仕事ですが、そこには久保田さんの木への想いがつながっていました。

■バットについて教えてください。

バットは木を四分分割したものを削って作られます。バットには板目と柁目があり、柁目の方が衝撃に強いです。メーカーのロゴは板目側にあり、野球選手がバッターボックスでバットを見るのはロゴで板目の位置を確認するためです。



■木への想いとは？

私が手掛けたバットは直径25cmを超える大きさのアオダモから削り出すのですが、そこまで生長するには60~70年が必要です。しかし、工場に運ばれる木の中には、それより少し細いために、バットに使えないものもあります。その大きさまで育つには、やはり何十年も必要なのですが。人間の都合で切り出され、バットに使えないから廃棄されるアオダモ。私はそれをとても申し訳なく感じ、細い木をなんとか利用できないかということに30代の頃からずっと考えていました。

■細い木の活用方法は？

お世話になっていた方のアドバイスで、麵棒への加工を試みました。完成した麵棒は、そば打ち名人といわれる方々に実際に使っていただきましたが、高い評価を受け、商品化にもつながりました。

また、同じ時期、私のいとこが定年退職を機にそば打ちを始めるというので、麵棒を贈りました。それからそばにのめり込み、店を開くに至り、私も現在、職人として手伝っています。



元気なまちがど



1 news 野洲川の石の観察会

拾って集めてじっくり観察

石の観察会が7月29日、水口スポーツの森周辺の河原で催され、100人を超えるの参加者が集まりました。

滋賀県骨材協会が主催するこの観察会は、石の標本を作り、地域の地質の成り立ちを調べることを目的としており、子どもたちには夏休みの自由研究にも役立つ学習の場です。

降り注ぐ真夏の日差しの中、参加した児童や生徒は、配布されたしおりを片手に真剣な眼差しでルーベ越しの石と見比べて観察していました。



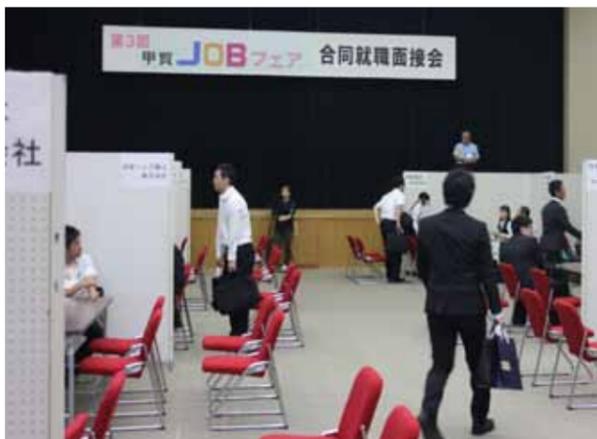
▲拾った石を観察する児童

2 news

JOBフェア

市内就職のきっかけづくり

▼企業・事業所ブースを回る求職者



市内で就職を希望する若者と、市内の企業・事業所との面談の場を設ける甲賀JOBフェアが8月4日、碧水ホールで開催されました。市が主催する同フェアは今年で3年目を迎え、参加事業所31社と124人の求職者が参加しました。幅広い業種が集まった会場では、求職者が企業担当者の話を熱心に聞き入っていました。

3 news

よくばり女子の仕事術

仕事と家庭の両立を

甲賀市男女共同参画講座「よくばり女子の仕事術」が8月5日、かぶか生涯学習館内の喫茶スペースで行われました。

この講座は2月に行われた「仕事に活かす女子力」に続く第2弾として開かれ、さまざまな世代の働く女性たちが自分たちの悩みや考え方を、ワークショップを通じて共有しました。

参加者たちは、仕事と家庭の両立を目指すことをテーマに議論を進め、悩みを打ち明けながら、働く女性同士の交流を図りました。



▶グループ毎に意見を発表する参加者

4 news しゃぼん玉づくり

ゆらゆら揺らめく虹色の玉

小学生を対象としたわくわくチャレンジクラブのしゃぼん玉作りが8月8日、かえで会館で催されました。

この日、参加した児童は、自分たちで配合したしゃぼん液でさまざまな大きさのしゃぼん玉作りにチャレンジしました。

はじめはなかなか作れなかったしゃぼん玉も、繰り返すうちに形になり、最後には一人ずつしゃぼん玉を作る「発表会」がありました。

誰より大きなしゃぼん玉をつくらうとする真剣な眼差しが、いつしか、浮かぶしゃぼん玉の向こう側でははじけるような笑顔になっていました。



▶浮かぶしゃぼん玉に触れようとする児童